

# 令和4年秋の全国交通安全運動の重点（案）

## 【全国重点】

### ○ 重点1

子供と高齢者を始めとする歩行者の安全確保

#### 【設定理由】

交通事故死者数全体のうち、歩行中の割合が最も高く、歩行者側にも走行車両の直前・直後横断や横断歩道外横断、信号無視等の法令違反が認められる。また、次代を担う子供のかけがえない命を社会全体で交通事故から守ることが重要であるにもかかわらず、幼児・児童の死者・重傷者は歩行中の割合が高く、依然として道路において子供が危険にさらされている。さらに、歩行中の交通事故による死者数のうち高齢者の占める割合が高い。このため、子供と高齢者を始めとする歩行者の安全確保を図る必要があること

### ○ 重点2

夕暮れ時と夜間の歩行者事故等の防止及び飲酒運転の根絶

#### 【設定理由】

例年、日没時間が急激に早まる秋口以降は、夕暮れ時や夜間に重大交通事故が多発しており、死亡事故の第1当事者の多くは自動車で、歩行者の死亡事故の多くが道路横断中に発生している。また、妨害運転（いわゆる「あおり運転」。以下同じ。）等の悪質・危険な運転による交通事故や電動キックボード等による交通事故が発生し、75歳以上の運転者については、75歳未満の運転者と比較して免許人口当たりの死亡事故件数が多く、その要因としてハンドルやブレーキの操作不適が多くなっている。加えて、自動車乗車中における後部座席シートベルトの着用率やチャイルドシートの適正使用率がいまだ低調である。さらに、飲酒運転による悲惨な交通事故が依然として発生している。このため、夕暮れ時と夜間の歩行者事故等の防止及び飲酒運転の根絶を推進する必要があること

### ○ 重点3

自転車の交通ルール遵守の徹底

#### 【設定理由】

自転車は、身近な交通手段であるが、自転車乗用中の交通事故死者数が減少傾向にある一方で、交通事故死者数全体に占める割合はほぼ横ばいで推移し、自転車関連事故件数では、「自転車対歩行者」がほぼ横ばい、「自転車単独」が増加している。また、自転車乗用中の交通事故死傷者数のうち10歳から25歳未満の若年層の割合が高い。さらに、自転車関連の死亡・重傷事故は、自転車側の多くに法令違反があると認められる。このため、自転車の交通ルール遵守の徹底が必要であること

## 【地域重点】（案）

### ○ 重点4

#### 二輪車の交通事故防止

##### 【設定理由】

令和4年上半期の都内における交通事故死者数は57人であり、そのうち二輪車（原付車含む）は19人と全体の3分の1を占め、状態別では歩行者に次いで2番目に多い状況である。また、通勤通学の時間帯の発生が多いことや事故当事者は幅広い年代に及んでいることから、ヘルメットの正しい着用や胸部プロテクターの装着を促進し、初心者や運転に不慣れな利用者に対する交通安全啓発の必要があること

### ○ 重点5

#### 電動キックボード等の交通ルール遵守の徹底

##### 【設定理由】

都内における電動キックボード等の利用者増加に伴い、一部の利用者による飲酒運転等の悪質・危険な運転が社会問題となっているほか、利用者全体に対する交通ルールの浸透もいまだ十分ではない状況である。利用者及び販売店等に対して、運転免許の必要性、歩道通行の禁止、車道における左側通行、飲酒運転禁止等の交通ルール遵守の徹底や、保安基準の確実な適合、自賠責保険の加入等について周知徹底する必要があること